NEXT DOOR

Vol.03
2026.07
会　報　誌



会報誌 第3号をお届けいたします。

2026年6月、私たちはモンゴルの大地に再び希望の種をまきました。寒冷地での稲作という大きな挑戦―「チンギスゴールド」の試験栽培です。強い風と冷たい水のなか、折谷先生をはじめ多くの仲間とともに、無事に田植えを終えることができました。

本号では、その歩みを巻頭でご報告するとともに、理事長・藤重佳代子へのインタビュー特集、そしてこの夏から秋にかけて開催する3つのモンゴルツアーをご案内いたします。

学び・農業・人と人とのつながりを大切に、国や地域の枠を越えて、「自立」を支える活動を続けてまいります。本号が、皆さまと私たちを結ぶ新たな一歩となれば幸いです。

CHINGGIS GOLD | MONGOLIA 2026

チンギスゴールド再出発
— モンゴル試験栽培2026





2026年6月、NPO法人NEXTDOORはモンゴルで「チンギスゴールド」の試験栽培を再開し、無事に田植えを行いました。短い夏、朝晩の大きな寒暖差、強い風——日本とは大きく異なる環境で栽培できる可能性を探るため、昨年に引き続き試験栽培に取り組んでいます。

ニつの試験圃場で田植え

今回はニか所の圃場で田植えを実施しました。一つはカラコルム（ハルホリン）市のハルタル市長のご配慮でお借りしたトゥブ県の農地。もう一つは、将来ゲルキャンプ場の開設を予定するウランゴさん所有地の温室ハウスです。露地栽培と温室栽培の両方を試み、モンゴルの環境に適した栽培方法と品種選抜につなげていきます。





90歳の折谷先生とともに

チンギスゴールド開発の中心である折谷隆志先生が現地を訪れ、自ら田んぼに入って指導されました。冷たい水田で地温・水温を確かめ、苗の状態を見極めるお姿に、参加者一同が大きな感銘を受けました。長年培ってこられた経験と知識を、次の世代へつなぐ大切な機会ともなりました。

モンゴルで広がる協力の輪

今回はモンゴル農業・食糧・軽工業省の事務次官、オトゴンバヤル国会議員、在モンゴル日本国大使館の井川原大使にご挨拶する機会をいただきました。駐日モンゴル国大使バヤルサイハン大使をはじめ多くの方々のご支援、そしてバトフー先生・デムベレル先生のご協力により、今回の試験栽培が実現しています。







大地に、希望の種を

田植え当日は強風と雨にも見舞われましたが、作業を無事に終えました。広大な大地に植えられた小さな苗の成長は、モンゴルにおける稲作の可能性を探る大切な一歩です。今後も栽培状況を見守りながら、日本とモンゴルを結ぶ農業交流を続けてまいります。ご支援・ご協力いただくすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。



出会いが使命になるまで
—— モンゴルとバングラデシュと私

理事長　藤重 佳代子

「なぜモンゴルなのか」「なぜバングラデシュなのか」——この問いを何度も受けてきました。

一見異なる二つの国ですが、どちらも私の人生を大きく変え、今の活動へと導いてくれたかけがえのない存在です。

01 バングラデシュとの出会い —— 原点となった衝撃

国際支援に目を向けたきっかけは、2003年にNGO「ハンガー・フリー・ワールド」のスタディツアーでバングラデシュを訪れたことでした。そこで出会ったアニスルさんとミトンさんは、今も交流のある戦友のような存在です。

ダッカからジョソールへ移動し、アニスルさんの生まれ故郷で現地の暮らしを体験しました。一方でダッカのスラム街も訪れ、幼稚園児のような子どもたちがレンガ工場で働く姿に衝撃を受けました。貧しい家庭で育った私も、「自分の貧しさはまだ序の口だった」と思い知らされた瞬間でした。

近年バングラデシュは著しい経済発展を遂げましたが、ジョソール近郊の農村部では今も格差が大きく残っており、「まだ支援が必要だ」という思いは変わりません。

02 バングラデシュの人々の暮らしを支えるために —— 生活支援から教育・就業支援へ

私たちはこれまで、中学生への奨学金支援や学校建設など、教育を中心とした活動に取り組んできました。しかし、現地では「学びたくても生活が苦しい」「教育を受けても働く場所がない」という現実があります。

そこで現在は、生活支援・教育訓練支援・就業支援を一つの流れとして捉え、持続的な自立につながる仕組みづくりに力を入れています。

その一つが「家畜支援プロジェクト」です。山羊や牛、鶏などを寄贈し、ミルクや卵などの栄養を確保するとともに、繁殖や販売によって収入を得られる仕組みを目指しています。また、マンゴーやニームなどの植樹も進め、将来的な収入源や地域の環境保全につなげています。

子どもたちが安心して学び、学んだ先に働く場があり、家族が安定した生活を送れること。その循環を生み出すことこそが、私たちが目指す「自立を支える国際協力」の姿です。

03 モンゴルとの出会い —— 人とのご縁が広げてくれたもう一つの人生

モンゴルとの縁は、2008年6月、稲作プロジェクトのボランティアとして、富山県モンゴル友好親善協会の活動に参加したことから始まりました。

その活動の中で出会ったアムガランさんには、長年にわたり通訳として支えていただきました。そして、モンゴルとのご縁をここまで広げることができたのは、友好親善協会の山口会長や長井さんをはじめ、当時ご縁をいただいた政治家や経営者の皆さま、さらにバトフー先生やデムベレル先生など、多くの研究者・専門家の方々のお力添えがあったからです。

人との出会いが新たな出会いを生み、そのつながりが今の私の活動の大きな支えとなっています。モンゴルは、私にとって多くの学びと大切なご縁を与えてくれた、もう一つの人生の軸となっています。

04 名誉領事としての役割 —— 人と地域をつなぐ使命

2023年、在富山モンゴル国名誉領事を拝命しました。当初はその役割を十分に理解していたわけではありませんが、職責を学ぶ中で、「人と人、地域と地域をつなぎ、在日モンゴル人を支え、経済・文化交流を促進すること」が名誉領事の大切な使命であることを知りました。それまで点として取り組んできた活動が一本の線で結ばれ、自分の進むべき道がより明確になったように感じています。

その活動の一つが、モンゴルでの稲作プロジェクトです。現在、モンゴル政府のご理解とご支援により、カラコルム市で約200ヘクタールの農地を借り受ける許可をいただくことができました。

しかし、いきなり大規模栽培を始めるのではなく、まずはその農地で栽培するための「チンギスゴールド」の種籾を増やすことが最初の挑戦です。そのため現在、トゥブ県やウランバートル近郊の試験圃場で田植えを行い、9月頃の稲刈りでどれだけ種籾を増やせるかに挑戦しています。

寒冷地でも育つ稲を育成し、将来的にはモンゴルの人々が自ら米を生産し、食を支えることができる環境をつくること。それは食糧安全保障の観点からも大きな意義があり、私自身の新たな使命の一つになっています。

05 「天は自ら助くる者を助く」
—— 私が目指すボランティアのかたち

私の愛読書の一つに、サミュエル・スマイルズの『自助論』があります。

自助論(Self-Help)は、19世紀イギリスの思想家 サミュエル・スマイルズ によって書かれた書籍で、1859年に出版されて以来、世界中で読み継がれてきました。日本でも明治時代以降、多くの人々に影響を与えてきた名著です。

この本の中で最も心に残っている言葉が、次の一節です。

天は自ら助くる者を助く
Heaven helps those who help themselves

これは、「困ったときに誰かが助けてくれるのを待つのではなく、まず自分自身が一歩を踏み出し、自ら努力する人にこそ道が開かれる」という考え方です。

自助論の根底には、

- 自分の人生は自分で切り拓くこと
- 努力は日々積み重なること
- 人格や誠実さこそが信頼を生むこと
- 働くことそのものに価値があること

といった普遍的な考え方があります。

私はこの言葉を、決して「人に頼らず一人で生きること」だとは思っていません。むしろ、自立した人同士が支え合い、学び合い、共に成長していくことこそが、本当の自助の精神だと考えています。

私たちが目指しているボランティア活動も、まさにその理念に基づいています。

これからの時代、世界は食糧問題やエネルギー問題など、多くの課題に直面しています。だからこそ、一人ひとりが「自分たちで生きる力」を身につけることが大切です。

食糧を自分たちで育てること。

エネルギーをできる限り地域で生み出すこと。

誰かに依存するのではなく、自立した暮らしを目指すこと。

そして、自分が学んだことを周りの人に伝え、困っている人がいれば手を差し伸べること。

「学ぶこと」と「教え合うこと」、そして「助け合うこと」は、決して別々のものではありません。

一人ではできないことも、志を同じくする仲間が集まれば、大きな力になります。

私は、ボランティアとは単なる支援活動ではなく、「自立した人を育て、その人たちがさらに誰かを支える循環をつくること」だと思っています。

一人ひとりが自らの力で立ち上がり、その力を周囲のために役立てていく。

そんな人の輪を、日本から、そして世界へと広げていくことが、私の目指す社会であり、私がボランティア活動を続ける理由です。

06 自立を支える学び
—— AI・パソコン・農業講座への取り組み

現在、日本においてAIやパソコン講座など、さまざまな学びの場を準備しているのも、この「自助」「自立」という考えに基づいています。

これからの時代、AIは電気のようなインフラになると言われています。この学習を怠れば、日常生活の中で不便を感じるだけでなく、誰かに頼らざるを得ない状況が生まれます。

そしてAIを使いこなすためには、基本となるパソコン操作が不可欠です。そのため、パソコン講座についても今後さらに強化していく予定です。

また、農業分野においても、家庭菜園講座の開設を進めています。特別な道具がなくても、身近な工夫で野菜を育てることができます。

例えば、ドラッグストアなどで手に入る200円前後の土の袋をそのまま使い、底をガムテープで補強することで、プランターがなくても簡単に栽培が可能です。

ネギや薬味、レタスなどの葉物野菜から、トマトやきゅうりといった夏野菜、さらにじゃがいもやにんじんなどの根菜類まで、日常の中で育てられる方法を、皆さまと共に実践的に学んでいきたいと考えています。

また遠方の方々にも参加していただけるよう、Zoomを活用したオンライン講座も実施予定です。これまでモンゴル語講座において、オンライン配信や動画学習の有効性はすでに実証されており、今後はさらに内容を充実させてまいります。

07 二つの国がくれたもの

バングラデシュとモンゴルとの出会いは、私の人生を大きく変えてくれました。

バングラデシュでは、人が生きるための教育と仕事の大切さを学びました。

モンゴルでは、大自然とともに生きること、人と人とのつながりの尊さを教えられました。

この二つの国を訪れるたびに、自分は何を大切にして生きていきたいのか、何のために行動するのかを改めて考えさせられます。

私にとってバングラデシュとモンゴルは、活動の場であると同時に、自分自身の原点を思い出させてくれる大切な場所です。

event



モンゴル絵本文化交流展 ～草原の風が運ぶ物語～ 開催報告

（2026年6月5日～14日／ 射水市大島絵本館 ）



2026年6月5日（金）から6月14日（日）まで、射水市大島絵本館を会場に「モンゴル絵本文化交流展」が開催されました。NEXTDOORは本展の後援団体として運営に協力し、日本とモンゴルの文化交流の一助となるべく参加いたしました。会期中は1,060人もの皆様にご来場いただき、盛況のうちに幕を閉じました。



開会式は6月5日（金）午前11時より、射水市大島絵本館シアターにて執り行われ、駐日モンゴル国特命全権大使　バンズラグチ・バヤルサイハン閣下がご登壇。富山県知事代理 杉田聡 生活環境文化部長、射水市長 夏野元志様、富山県議会議員 瀧田孝吉様、射水市議会議長 高橋久和様より祝辞が寄せられました。



前日の6月4日（木）にはプレイベントとして本物のゲルの組み立て体験が行われ、来場者も作業に加わりながらゲルの構造を間近で体感しました。



6月7日（日）にはデルゲルマーさんによる馬頭琴の生演奏と、モンゴルの民話「スーホの白い馬」の読み聞かせが行われ、演奏と物語が響き合う特別なひとときとなりました。



会場には、モンゴル語原書絵本16冊の日本語訳付き展示・販売、民族衣装（デール）の試着と記念撮影、ミニゲル体験とシャガイ遊び、キリル文字で名前を書くオリジナル名刺づくり、スーテーツァイ（ミルク紅茶）と乾燥チーズのモンゴル食文化体験、スタンプラリーなど、多彩な体験コーナーが設けられました。会期中は富山県・石川県在住のモンゴル人のお母さんたちによる絵本の読み聞かせも複数回行われ、言語と文化を楽しむ温かな場となりました。

ご来場・ご協力いただいた皆様、関係各機関、絵本館スタッフ、そしてボランティアの皆様に深く感謝申し上げます。









2026年 7・8・9月　モンゴルツアー、参加者募集中！

● 7月22日～27日｜
ゲルキャンプ場オープン記念ツアー

ゲルキャンプ場オープンに向けて、大草原にゲルを設置する特別なツアー。自分たちの手で拠点を立ち上げる、開設の第一歩を。

● 8月22日～27日｜
モンゴルシベリア鉄道ツアー

シベリア鉄道に揺られながらモンゴルを旅する。シベリア鉄道で2泊、ゲルキャンプにも1泊を予定。

● 9月上旬｜
モンゴル稲収穫ツアー

チンギスゴールドの収穫体験へ。ニか所の圃場で稲刈りに参加し、ゲルキャンプに宿泊。乗馬体験も。

各6日間／定員に限りがございます。詳細・お申込みは公式HP（https://nextdoor.or.jp）または藤重まで。

講座はオンライン（Zoom）で開講中

モンゴル語講座とパソコン・AI講座を、毎週土曜日オンライン（Zoom）で開講しています。初心者の方にもやさしい内容で、遠方の方もご自宅から参加いただけます。受講料・日程など詳しくは公式ホームページをご覧ください。

モンゴル語講座（初級〜日常会話）

毎週土曜日 10:30〜11:30

在日モンゴル人スタッフが講師となり、「はじめてのモンゴル語 - あいさつから日常会話へ」をテーマに、初心者の方でも安心して学べる内容です。モンゴル語の文字の読み書きから始まり、基本的なあいさつや簡単な自己紹介まで、ゆっくり丁寧に学んでいます。

パソコン・AI講座（AIの活用と基礎操作）

毎週土曜日 13:00〜14:00

「ゼロからはじめるAIとパソコン活用」をテーマに、初心者から中級者まで楽しく学べる内容です。ChatGPTと会話したり、ネット検索をサポートしてもらったり、文章や資料を手伝ってもらうなど、AIの基礎を理解し実生活や仕事に使えるようになることを目指しています。



次回会報誌発行：2026年 12月予定

お問い合わせ・連絡先

- 事 務 所　〒933-0912　富山県高岡市丸の内1-40 高岡商工ビル9F　Tel　0766-73-9830
- 活動本部　〒933-0123　富山県高岡市伏木矢田5-59　Tel / Fax　0766-45-1002

Email　info@nextdoor.or.jp
HP　https://nextdoor.or.jp

NEXT DOOR